

清上防風湯

★ (公典) 鑿廷賢 「万病回春」 ★ 処方内容

①

面に瘡を生ずるは、上焦の火なり。 清上防風湯 上焦の火を清し、頭面に瘡癩、風熱の毒を生ずるを治す。 防風(二錢)、荊芥、梔子、黄連、薄荷、枳殼(各五分)、連翹、白芷、桔梗(各八分)、黄芩、川芎、甘草(三分)。 右列み一劑。水煎して食後に服す。竹瀝一小鍾を入れ、尤も妙なり。 面の紫黒は陽明の病なり。	面病	新刊万病回春卷之五 私田邦天著 万病回春解説
---	----	------------------------------

② (軍医研処方集)

川芎 2.0	山梔子 2.0
黄芩 2.0	甘草 1.5
連翹 2.0	枳殼 1.5
防風 2.0	荊芥 1.0
白芷 2.0	黄連 1.0
桔梗 2.0	薄荷 1.0

★ 漢方診療三十年(工塚敬節著) 治験例を主とした治療の実際

⑤ 332 面疱(にきび)のひびく青年

二十五歳の男子、数年前より肺結核にかかり、目下ほとんど全快してゐる。ところが、顔面一面に、面疱ができ、その先端に小さく膿をもち、一つ治れば、また一つできるという調子で、なかなか治らないという。

私はこれに清上防風湯を与えたと、三ヵ月ほどで、ほとんど全快した。ところが、頭部の毛髪部に、小さいフロンケルが数個できてなかなか治らないので、清上防風湯に桃仁(一〇)を加えて与えた。すると二三日の服用で面疱が急に増加し、先端にそれぞれ膿をもつてしまった。おどろいて、桃仁を去って与えたと、また面疱は次第によくなくなり約六ヵ月で全快した。

私は前に、面疱のある婦人に、桂枝茯苓丸を与えて、かえって増悪した例を知っている。桂枝茯苓丸にも、桃仁が入っている。桃仁が何故わるかったか、いまだに見当がつかないが、こんな例もあったということを報告しておく。

★ 漢方診療巨典(大塚敬節・清水)：「薬方解説」

③ 清上防風湯(せいじょうぼうふうとう)

本方は上焦の実熱を清解、発散するのが目的で、上焦の熱気が強く、頭面に瘡を發するを治すものである。荊防敗毒散では軽きにすぎ、防風通聖散では強きにすぎるといふ場合に用いるものである。

黄連、黄芩、山梔子はいずれも実熱を清解し、白芷、桔梗、川芎、防風、荊芥などは皆上焦、頭面に作用して、驅風、解毒、排毒の能があり、連翹は枳殼とともに化膿毒を消散させる。

本方は上の目標に従い、青年男女に發する実証の面疱(にきび)、頭部濕疹、眼目充血、酒皸鼻などに應用される。

★ 加減について：治療法概要

④

ところが、自分の思わくで、加減をすると、思わぬ失敗をすることがあるから注意しなければならない。

私にこんな例がある。

顔いちめん尋常性瘡癩のできた青年に清上防風湯を与えたところ、軽快し、八分通りよくなったところ、頭部にフロンケルができたので、それをもいっしょに治してやろうと考え、清上防風湯加桃仁にしたところ、瘡癩がまたひどくなり、しかも化膿して、驚いたことがあった。つまり小刀細工はするものでないと、つくづく感じた。

★ 漢方診療巨典：治療各論 皮膚疾患

⑥ 面 疱

俗にニキビと称する。漢名は穀癩瘡、または面粉癩ともいった。青春期の發育盛りに、皮脂の分泌物が多くなるので起る。顔に多く出るが胸や背中にもでる。胃腸障害、便秘などはその誘因となる。

面疱は、毛孔に一致して、粟粒ぐらいの大きさで、青黒い隆起した点となり、その周囲から強くおすと、角質と皮脂とからなる脂肪の小塊が出てくる。ここに細菌がついて感染すると、尋常性瘡癩となる。赤い円錐形の小さい丘疹ができて、さらに膿疱となり、皮下にしこりを作る。

〔清上防風湯〕 男女ともしっかりした体質の者で、顔面が紅潮し、にきびも赤く、あるいは黄褐色を呈し、隆起も赤味をおびているものに一般に用いられる。薏苡仁6.0gを加え、便秘の者には大黃1.0gを加えるがよい。

- ・急性・慢性結核瘰癧
- 〔清上防風湯〕 同様に炎症、充血があり、上気して顔色が赤く、皮膚は淺黒く、面疱や顔面に発疹などのあるものには本方がよい。
- ・顔面白癬(はたけ) T-L-C
- 〔清上防風湯〕 頭部や顔面が赤くなり熱を持って、痒みを覚えるようなときには本方を用いる。

★ 症候による漢方治療の実際(工塚敬節著)

⑦ 7. 清上防風湯(せいじょうぼうふうとう)

これは万病回春の方で、頭面の瘡癩、風熱毒に用いる。そこで私は、これを尋常性瘡癩(にきび)に用いるが、また副鼻腔炎を頭面の風熱毒とみて、この方を用いる場合がある。私はこの方を用いて、にきびと副鼻腔炎とを同時に治したことがある。

21歳の未婚の婦人、いつも後頭部が重く、急に振りむく時などに、めまいを起す。また黄色の膿様の鼻汁が沢山出る。医師から蓄膿症があると云われた。顔面にはにきびが出ていて、そのにきびが赤味を帯びている。脈は沈んでいて力がある。舌には茶褐色の舌苔が、乾燥している。便秘の傾向があるが、下剤を用いると、下痢しすぎる。月経が2ヵ月前より不順になっている。腹は膨満はしていないで、一体に硬い。こんな症状であるから、消炎、解毒、排膿の効ある清上防風湯に薏苡仁を入れて用いた。すると、その翌月は、2回も月経があつて、それが永びき、右側の鼻より多量の鼻汁が出た。そしてにきびは減少し、2ヵ月もたたないうちに、ほとんど治ってしまった。鼻はその後、時々塞つたり、頭が重かつたりしたが、ひきつづきこれを用い、6ヵ月あまりで全快した。

★ 大塚敬節著作集 第5巻 治療篇3

⑧ 副鼻腔炎に清上防風湯

患者は昭和六年生れの女性。昭和五十二年八月二十日初診。

主訴は左側上頸部に重圧感があり、濃い鼻汁のようなものが、のどに落ちる。左側の頸部から項部にかけてひどくなる。大便一日一行、月経順調。

耳鼻科の医者は、手術しなければ治らないと診断した。

漢方の本を読んで、一ヵ月ほど葛根湯を飲んだが、効がないという。

上頸部に圧痛がある。血色よくややのぼせる傾向がある。

清上防風湯加薏苡仁とする。二週間の服用で、上頸部の圧重感が取れ、首のこりも軽快し、のどに落ちる膿も減少。十月中旬には、自覚症状はなくなったが、目下連続服用中。

『漢方診療巨典』には、清上防風湯の条に「上焦の実熱を清解、発散するのが目的で、上焦の熱気が強く、頭面に瘡を發するを治すものである」「本方は、上の目標に従い、青年男女に發する実証の面疱、頭部濕疹、眼目充血、酒皸鼻などに應用される」とあり、実熱の傾向のある面疱のある患者にしばしば見られる副鼻腔炎に用い、双方の病症がよくなることがある。

⑨

### 2. 尋常性痤瘡

以下の処方を選択されることが多い。

- 黄連解毒湯：顔の赤み・炎症が強い。
- 清上防風湯：黄連解毒湯と似ているが脂ぎった感じが強いものによる。
- 当帰芍薬散：逆に顔色が悪く冷え性でにきびに艶がなく隆起もないもの。しばしば月経異常を伴い、月経周期に増悪する。
- 桂枝茯苓丸：顔が赤いかややくすんだ印象があり、にきびも青黒い感じのもの。しばしば月経異常を伴い、月経周期に増悪する。桂枝茯苓丸加薏苡仁とするものが多い。
- 半夏瀉心湯：不摂生な食事や胃腸障害を伴うもので口周を中心に行けるもの。



大塚敬節によれば「赤いにきびは清上防風湯、青いにきび（瘀血を伴う青紫色）は桂枝茯苓丸、白いにきび（艶がない）は当帰芍薬散」とのこと。筆者はこれに「黄色いにきび（胃腸障害を伴う化膿性のもの）は半夏瀉心湯」と加えたい。

煎じ薬ならにきびには基本処方に薏苡仁を入れることが多い。当帰芍薬散の適応にみえて効かなかったものに薏苡附子散 散が有効な例がある。

東洋医学  
最前線

## 生薬

### 植防風の成分研究

(Studies on the Constituents of Shoku-Bohfu)

池城 安正

新潟薬科大学 助教授

Yasumasa Ikeshiro

Niigata College of Pharmacy,  
assistant professor

## 薏苡仁・細辛・防風の漢方処方

原 桃 介

(同愛記念病院 / 内科・東京都)

### 2. 清上防風湯 (万病回春)

防風 2.5, 連翹 2.5, 桔梗 2.5, 白芷 2.5, 黄芩 2.5, 川芎 2.5, 荊芥 1.5, 梔子 1.5, 黄連 1.0, 薄荷 1.0, 枳殼 1.0, 甘草 1.0.

黄連、黄芩、梔子は抗炎症・解熱作用があり、防風、連翹、荊芥、薄荷は皮膚疾患の解毒・発赤作用がある。桔梗は排膿、白芷は鎮痛、川芎は血液の循環をよくし、諸薬を上部および顔面に作用させる。

実証ないし中間証、顔面や頭部にうっ滞した熱や発疹を消散させる。

尋常性痤瘡、頭部・顔面湿疹、眼充血、顔面充血、酒皰鼻に用いられる。

★ 漢方診療三十年 (大塚敬節著)  
の随例を主に記述する

### ★ 大塚敬節著作集

#### 第三巻 治療篇 1

#### 漢方医学の症候のこらえかた

#### 第二十一章 雑 症

- (5) にきびには清上防風湯の証が多い
- 便秘する人には大黄を加えてよい。

333

### 蕁麻疹と面疱と瘡の出る婦人

二十八歳の婦人、五年前に結婚したが、また妊娠しないという。ところが、二年ほど前から顔面ににきびができるようになり、その上小さい瘡がときどきできて化膿する。そればかりか、蕁麻疹もできるようになった。大便秘は一日一行あり、月経は正順にある。

私はこれに清上防風湯を与えた。二週間ほどのむと蕁麻疹は全く出なくなり、にきびも減少した。ところが、どうしたわけか、便秘するようになった。そこで大黄十一・五を加えたところ、大便秘が毎日快通するようになり、食がすすむようになった。そこでひきつづき前方を与えたところ、二ヵ月足らずで、にきびは全くできなくなった。

### 第五巻 治療篇 3

#### 反古のゆかり

#### 滋陰降火湯

少年少女のにきびには、清上防風湯の効くものが多いが、これで治らず、当帰芍薬散桂枝茯苓丸などを用いた方がよいこともある。香月牛山は、滋陰降火湯を用いてその効神の如しと述べている。それぞれ証に従って用いるがよい。

滋陰降火湯を用いる目標は、色が淡黒く、口が乾き、のぼせるなどの症状があつて、大便秘便という点に注意する。清上防風湯の証と区別がむづかしいときは、先ず清上防風湯を用い、効がなければ滋陰降火湯を用いてみるがよい。

### 尋常性痤瘡の治験例 (一)

〔尋常性痤瘡 (通称ニキビ) を主訴として、過去一カ年間に来院した患者は五十名

清上防風湯 (加大黄)	二十	桂枝茯苓丸加薏苡仁	八
当帰芍薬散加薏苡仁	五	加味逍遙散加薏苡仁	三
温清飲	三	小柴胡湯	二

次に、これらの薬方を用いた目標について述べる。清上防風湯は一番多く用いられ、体格は比較的しつかりしていて、顔面赤く充血の傾向でのぼせるもの、痤瘡も赤味を持ち化膿するものもある。便秘がなくても大黄を加味してよいことがある。胃が重いと訴え、心下痞硬、肩背のこり、頭痛などを訴えるものもある。

服用期間は最低一カ月で、長期間の者は九カ月に及んでいる。しかし、始めは清上防風湯でなく、桂枝茯苓丸料などを用いて効がなくて、この方に転方したために長期間の服用を必要としたものもある。桂枝茯苓丸加薏苡仁は清上防風湯証に似ていて、誤診する例がある。例えば、血色もよく体格もがっちりしていて、のぼせや月経前に痤瘡が多く出るといふので、桂枝茯苓丸料加薏苡仁を用いて効なく、清上防風湯二カ月で全治した例もある。従って月経前に悪化するという点は、桂枝茯苓丸や当帰芍薬散を用いる目標にはならず、清上防風湯証の患者でも同じである。

桂枝茯苓丸を用いるいちばん大切な目標は、瘀血の腹証である。桂枝茯苓丸加薏苡仁を用いて効果のあった八例中、瘀血の腹証を証明できなかったものは二例で、他の六例は右または左、あるいは左右の下腹に抵抗と圧痛をはっきり証明できた。また瘀血の腹証を発見できなかった一例は、月経は順調で軽い困難症があつたが、清上防風湯加大黄を用いたところ、その翌月から月経が閉止し、三ヵ月経っても通じないので桂枝茯苓丸料加大黄を用いて月経が通じたが、心下部の疼痛と悪心を訴えたので、柴胡桂枝湯加大黄薏苡仁を用いて四ヵ月で全治した。これは、桂枝茯苓丸の証でなかったかも知れないと考えている。

### 第四巻 治療篇 2

#### 尋常性痤瘡に当帰芍薬散料加薏苡仁

昭和十七年生れの婦人。初診は昭和四十五年十月二十五日。十年前に顔に痒みのない赤味を帯びた発疹が出来て、治らないという。その他に右遊走腎があつて腰が痛み、足が痺れるという。大便一日一行。月経順調で困難症がある。腹診するに、右下腹に抵抗と疼痛がある。まず清上防風湯加薏苡仁を与える。一ヵ月服用、全く効をみとめない。腹証を目標にして、桂枝茯苓丸料加薏苡仁に転方。これも一ヵ月飲んだが効かない。そこで当帰芍薬散料加薏苡仁桔梗としたところ、一ヵ月後には、きれいな顔になった。何とだらしなない治験例であることよ。

無効体質

# 防風の化学・薬理

田口平八郎  
(津村順天堂)

## 防風の薬理

防風は神農本草経の上品に記載されており、その薬能は「大風、頭眩痛、悪風、風邪、目盲にして見る所なし、風周身を行ぐり、骨節疼痛、煩満を主る」とある。中薬志には「有発表、祛風、除湿的功能。用于感冒、頭痛、発熱、無汗、風湿痺痛、四肢拘攣、皮膚風湿搔痒、破傷風等症」とあり、中薬大辞典においても同様な記載があり、風邪の重く深い状態を治すと考えられる<sup>1)</sup>。現在では主に後世方の処方配合され、防風の配合されている主な漢方処方と、その期待される薬効を表示してみると表2のようになる(矢数道明著、漢方処方解説より)。表2より明らかな如く、防風は皮膚疾患、消炎排膿、鎮痛等の目的で用いられる処方に配合されている。

防風の薬理研究は、その薬能から解熱、鎮痛、消炎、血圧降下作用等について行われている。

防風の煎液あるいは浸液を混合チフス菌で発熱させた家兎に経口投与すると著しい解熱作用を示し、その作用は煎液の方が強く表われると

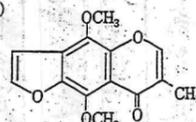
いう報告がある<sup>1)</sup>。

防風の50% エタノールエキスをマウスに経口投与すると著しく疼痛閾値を高め、皮下注射でも同様の効果があると報告されている<sup>1)</sup>。

長ら<sup>2)</sup>は関節、身体の疼痛および慢性関節リウマチの治療を目的とする代表的な処方に配合される頻度の高い生薬につきラットにおけるアジュバンド関節炎に対する作用を調べた結果、防風の煎液に経口投与において関節炎の惹起を抑制する作用を認めた。

佐々木らは防風より分離された hamaudol (8), sec-O-glucosylhamaudol (12)<sup>3)</sup>, 5-O-methylvisamminol (13), 4'-O-β-D-glucosyl-5-O-methylvisamminol (14), cimifugin (15), prim-O-glucosylcimifugin (16)<sup>4)</sup> を体重 300 g 前後、血圧 80~100mmHg のハートレイ系モルモット雄に静脈内投与し血圧に対する作用を調べ、それぞれの化合物に血圧降下作用を認めている。

図2 (20)



セリ科の *Ammi visnaga* LAM. の果実に含まれるクロモン誘導体の khelline (20) (図2) が冠状動脈を拡張し冠血流を増加させ、また、平滑筋を弛緩させる作用を有し狭心症や喘息等に用いられたことがあるが、同じクロモン誘導体の上記化合物群に血圧降下作用が認められたことは、防風通聖散や釣藤散等、高血圧症に用いられる処方中に防風が配合されていることと考え合えると興味深い。

## 臨床経験

# 皮膚病特に貨幣状湿疹と面疱様化膿性湿疹の漢方的療法

東京 相見 三郎

今回は湿疹のうち貨幣状湿疹と面疱様化膿性湿疹について、前者を温清飲証後者を清上防風湯証と判断しえたものと考え、その臨床的根拠を報告した。

## 第44巻第2号 1993年10月

### 臨床経験

# 尋常性痤瘡に対する漢方内服・外用剤併用療法

—抗生物質内服・外用併用療法との比較—

大熊 守也

### 3. 効果判定

皮疹、即ち、面皰、小丘疹、膿疱の状態を根拠にし、癢痕、色素沈着、紅斑は除外した。治療前より上記の皮疹の数が90%以上減少を著効、90~50%減少を有効、50~10%減少をやや有効、10%以下減少、または増加を無効とした。ただし、4週以上たってから初めて変化したものは治療による効果とせず、4週間以内で結果が無効になったものもデータから除外した。

### 総括

十味敗毒湯、黄連解毒湯、クリンダマイシン液、ステロイドローション、硫黄カンフルローションの外用剤併用療法は、ミノサイクリン内服、外用剤併用(ただしステロイドローションは除く)に比べて統計的に有意に尋常性痤瘡に対して優れた治療効果を示した。

# 日本東洋医学会誌

## 臨床経験

# 顔面皮膚疾患の治療経験

東京 藤井 美樹

第6例 田○秀○ S. 22. 生. 学生男。

初診 S. 43. 9. 7. 主訴 面瘡

昨年5月上京以来、面瘡がひどくなって来た。時々顔面に熱感と痒みがある。本年7月10日より、某病院の皮膚科へ通院しているが良くならない。体格中等、少しやせ型である。脈は緩。舌には白苔が少しある。顔面一杯といってよい位、少々黒みを帯びた面瘡が見られる。腹診では、下腹に稍々力がなく、左腹直筋の上端が少し拘攣している。清上防風湯は少し無理かなと考えたが、顔面に時々熱感があるというので、同方を投薬す。一週間後再診、食欲普通、便通よく、発疹は少し軽くなって来た。その後、所々に新しい発疹が少し出て、それが化膿するので、前方加薏苡仁6.0とする。引続き服薬中である。最近発疹が平坦となり、新しい発疹の出現は極めて少なく、顔面の熱感や痒みは殆んどない。全体として綺麗になって来ている。

第6例は、清上防風湯では薬方が強いかわれたが、幸い奏効してきている。

